

【草花の部屋】

マムシグサ(サトイモ科テンナンショウ属 *Arisaema serratum*)

和名：マムシグサ **別名**： **英名**：Jack in the pulpit

オモダカ目 多年草 **原産地**：アジア北東部

花言葉： 壮大 **花の色**： 紫



←写真-1、2 アオマムシグサの仏炎苞

撮影日：2014年04月16日

撮影場所：京都貴船にて

撮影者：M さん



←写真-3 アオマムシグサの偽茎

撮影日：2014年04月16日

撮影場所：京都貴船にて

撮影者：M さん



京都鞍馬寺から山道を西へ・・・。貴船側の入り口付近の斜面で見かけました。全く、気付かずに通り過ぎようとしたのですが、同行のメンバーの方が、「マムシグサがある」と、声をかけてくれました。

小生にとって初めてです。早速、カメラに納めました。

葉は2個あり、楕円形の小葉が7個から15個。球茎は平たい円形で地下にある。偽茎は、葉柄下部の2つの葉鞘部分が重なってできたもので、紫褐色のまだらな模様があり、この模様がマムシに似ていると考えられたところからこの名がつけられたそうです。秋田県では「ヘビノバッコ」とも呼ばれているそうです。雌雄異株。

2 固の葉の間から筒状の柄が伸び、先に仏炎苞（棒状の花を包み込む苞を仏像の后背にある炎形の飾りに見立てたもの）と呼ばれるものをつけま。仏炎苞は淡い紫色ないし淡い緑色で、縦に白い筋が入ります。

<ちょっと一言>

全草にシュウ酸カルシウムの針状結晶、サポニン、コニインが含まれ、特に球根の毒性が強く、その汁に触れると炎症を起こすそうです。誤って食すと口中からのどまでに激痛がはしり、唾を飲み下すことすらできないほどとなる他、激しい下痢や嘔吐、心臓麻痺といった症状が現れ、重篤な場合死亡するそうです。

近縁種にウラシマソウがあります

学名 : Arisaema urashima **和名** : ウラシマソウ

英名 : cobra lily Urashima

多年生